

6.8.4 生物・生態系

(1) 調査事項

調査事項は、表 6.8.4-1 に示すとおりである。

表6.8.4-1 調査事項

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度 ・陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度 ・生育・生息環境の変化の内容及びその程度 ・生態系の変化の内容及びその程度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・既存緑地の改変の程度 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地内のオープンスペース等には、生物・生態系に配慮した高木、低木や地被類を植栽することを検討する。 ・十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保することを検討する。 ・陸上植物、陸上動物及び生育・生息環境、生態系への影響の程度は不確実性を伴うことから、その内容をフォローアップ報告書において明らかにする。 ・会場エリア内において、海岸部の砂礫地等で繁殖するコチドリ等の注目される種が確認されていることから、工事エリア内が生息エリアにならないよう、工事中の一時的な造成地には極力被覆し、計画地外へ誘導する等により工事による影響を極力低減する計画とする。

(2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

(3) 調査手法

調査手法は、表 6.8.4-2 に示すとおりである。

表6.8.4-2 調査手法

調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度 ・陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度 ・生育・生息環境の変化の内容及びその程度 ・生態系の変化の内容及びその程度 	
調査時点	市街地再開発事業の大会前工事の終了後とした。	
調査期間	予測した事項	市街地再開発事業の大会前工事の終了後の適宜とした。
	予測条件の状況	市街地再開発事業の大会前工事の終了後の適宜とした。
	ミティゲーションの実施状況	市街地再開発事業の大会前工事の終了後の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とした。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。

(4) 調査結果

1) 調査結果の内容

ア. 予測した事項

(ア) 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、人工構造物や人工裸地にわずかに分布していた植栽樹林群（常緑広葉、落葉広葉、混交）等が改変されたが、市街地再開発事業として、オープンスペース等の植栽を施す箇所の一部において、クロマツ、イロハモミジ、マテバシイ等の既存樹種を含む高・中木約 100 種・約 1,000 本、低木約 4,600 株、地被類約 2,900m²を実施したほか、市街地再開発事業計画地内に生育していたアキニレ及びケヤキ等の計 6 本の移植が行われた。

なお、大会開催後には、市街地再開発事業として、残りの植栽を実施する計画である。

(イ) 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、陸上動物の生息環境である人工構造物や人工裸地にわずかに分布していた植栽樹林群（常緑広葉、落葉広葉、混交）等が改変されたが、市街地再開発事業として、オープンスペース等の植栽を施す箇所の一部において、動物相及び動物群集の生息環境となるクロマツ、イロハモミジ、マテバシイ等の既存樹種を含む高・中木約 100 種・約 1,000 本、低木約 4,600 株、地被類約 2,900m²の植栽や市街地再開発事業計画地内に生育していたアキニレ及びケヤキ等の計 6 本の移植が行われた。

なお、大会開催後には、市街地再開発事業として、残りの植栽を実施する計画である。

(ウ) 生育・生息環境の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、人工構造物や人工裸地にわずかに分布していた植栽樹林群（常緑広葉、落葉広葉、混交）等が改変されたが、市街地再開発事業として、オープンスペース等の植栽を施す箇所の一部において、生育・生息環境となるクロマツ、イロハモミジ、マテバシイ等の既存樹種を含む高・中木約 100 種・約 1,000 本、低木約 4,600 株、地被類約 2,900m²の植栽や市街地再開発事業計画地内に生育していたアキニレ及びケヤキ等の計 6 本の移植が行われた。

なお、大会開催後には、市街地再開発事業として、残りの植栽を実施する計画である。

(エ) 生態系の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、人工構造物や人工裸地にわずかに分布していた植栽樹林群（常緑広葉、落葉広葉、混交）等が改変されたが、市街地再開発事業として、オープンスペース等の植栽を施す箇所の一部において、クロマツ、イロハモミジ、マテバシイ等の既存樹種を含む高・中木約 100 種・約 1,000 本、低木約 4,600 株、地被類約 2,900m²の植栽や市街地再開発事業計画地内に生育していたアキニレ及びケヤキ等の計 6 本の移植が行われたことにより、生態系の保全に努めた。

なお、大会開催後には、市街地再開発事業として、残りの植栽を実施する計画である。

イ. 予測条件の状況

(ア) 既存緑地の改変の程度

「6.8.3 生物の生育・生息基盤」と同様である。

(イ) 緑化計画

「6.8.3 生物の生育・生息基盤」と同様である。

ウ. ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 6.8.4-3 に示すとおりである。

生物・生態系に関する問合せはなかった。

表6.8.4-3 ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	実施状況
<ul style="list-style-type: none"> 計画地内のオープンスペース等には、生物・生態系に配慮した高木、低木や地被類を植栽することを検討する。 	<p>大会開催前には、市街地再開発事業として、オープンスペース等の植栽を施す箇所の一部において、クロマツ、イロハモミジ、マテバシイ等の既存樹種を含む高・中木約100種・約1,000本、低木約4,600株、地被類約2,900㎡の植栽やアキニレやタブノキ等の広葉樹6本の移植を行い、新たな生物の生育・生息基盤を創出した。大会開催後においても、市街地再開発事業として、動植物の新たな生育・生息環境の創出や多様な生態系の形成に配慮した高木・低木等の植栽を実施する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保することを検討する。 	<p>市街地再開発事業として、植栽を施す箇所においては、高木・低木及び地被類の生育に十分な植栽基盤（土壌）を整備し、動植物の新たな生育・生息環境を創出した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 陸上植物、陸上動物及び生育・生息環境、生態系への影響の程度は不確実性を伴うことから、その内容をフォローアップ報告書において明らかにする。 	<p>大会開催前には、市街地再開発事業として、オープンスペース等の植栽を施す箇所の一部においては、クロマツ、イロハモミジ、マテバシイ等の既存樹種を含む高・中木約100種・約1,000本、低木約4,600株、地被類約2,900㎡の植栽やアキニレやタブノキ等の広葉樹6本の移植が行われ、植栽工事が進められている計画地周辺の晴海ふ頭公園や晴海緑道公園（仮称）と連続した動植物の生育・生息環境が創出される。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 会場エリア内において、海岸部の砂礫地等で繁殖するコチドリ等の注目される種が確認されていることから、工事エリア内が生息エリアにならないよう、工事中の一時的な造成地には極力被覆し、計画地外へ誘導する等により工事による影響を極力低減する計画とする。 	<p>工事エリアの砂礫地は、鳥類などの注目される種の生息エリアにならないように、シート養生（写真6.8.4-1）等により極力被覆した。</p>



写真 6.8.4-1 シート養生の状況

2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

ア. 予測した事項

(ア) 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

工事の実施に当たっては、人工構造物や人工裸地にわずかに分布していた植栽樹林群等が改変されたが、市街地再開発事業として、オープンスペース等の植栽を施す箇所の一部において、既存樹種を含む樹木等の植栽や移植が行われた。なお、大会開催後には、市街地再開発事業として、残りの植栽を実施する計画である。

以上のことから、予測結果と同様に、植物相及び植物群落の変化の程度は小さいと考える。

(イ) 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度

工事の実施に当たっては、陸上動物の生息環境である人工構造物や人工裸地にわずかに分布していた植栽樹林群等が改変されたが、市街地再開発事業として、オープンスペース等の植栽を施す箇所の一部において、動物相及び動物群集の生息環境となる既存樹種を含む樹木等の植栽や移植が行われた。なお、大会開催後には、市街地再開発事業として、残りの植栽を実施する計画である。

以上のことから、予測結果と同様に、動物相及び動物群集の変化の程度は小さいと考える。

(ウ) 生育・生息環境の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、人工構造物や人工裸地にわずかに分布していた植栽樹林群等が改変され、生育・生息環境の変化が考えられたが、市街地再開発事業として、オープンスペース等の植栽を施す箇所の一部において、生育・生息環境となるクロマツ、イロハモミジ、マテバシイ等の既存樹種を含む樹木等の植栽や移植が行われた。なお、大会開催後には、市街地再開発事業として、残りの植栽を実施する計画である。

以上のことから、予測結果と同様に、動植物の新たな生育・生息環境が創出されたものと考ええる。

(エ) 生態系の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、人工構造物や人工裸地にわずかに分布していた植栽樹林群等が改変されたが、市街地再開発事業として、オープンスペース等の植栽を施す箇所の一部において、生態系の生育・生息環境となるクロマツ、イロハモミジ、マテバシイ等の既存樹種を含む樹木等の植栽や移植が行われた。なお、大会開催後には、市街地再開発事業として、残りの植栽を実施する計画である。

以上のことから、予測結果と同様に、動植物の新たな生育・生息環境が創出され、多様な生態系が形成されるものと考ええる。